

登録コード	UAF20500	開講年度	2026				
授業題目	学校臨床心理学特論			担当教員	上村 恵津子		
				副担当			
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	月曜・1時限		
				授業形態	講義		
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標				授業で得られる「学位授与の方針」		⇔	【授業の達成目標】
2 4 UAカリ・総人社・心理長野・臨床心理学							
【心理・長野臨床】量的・質的分析方法を身につけると同時に、地域・社会・経済の抱える課題について、課題解決に必要な情報を収集する能力及び収集した情報を適切に分析する能力を有する。各領域の特徴を学び多面的に展開できる応用力を有する。資格取得を目指すものは、心理に関する支援を要する者の心理状態を分析する力、心理学分野の知識・技能を相談及び助言に応用する能力を有する。				⇔	①学校における子どもへの援助の全体像とプロセスを理解することができるようになる。 ②行動観察の手法を理解すると共に、これに基づき問題状況を環境要因との関連から捉えることができるようになる。 ③心理職及び教育職の働きかけの特徴を理解することができるようになる。		
【心理・長野臨床】人間と社会を探究する学問分野間の総合的な知見を活かし、俯瞰的な視野で課題を捉える力を有する。				⇔	④異なる専門性を有する援助チームのメンバーそれぞれの役割・特徴を活かした援助を検討することができるようになる。 ⑤自分の考えを分りやすく表現するとともに、他者の意見を聞きながら自分の考えを検討することができるようになる。		
2 6 UAカリ・総人社・心理長野・臨床心理学， 2 5 UAカリ・総人社・心理長野・臨床心理学							
【心理】心理学分野の高度な知識・技能を有する。				⇔	①学校における子どもへの援助の全体像とプロセスを理解することができるようになる。		
【心理】量的・質的分析方法を身につけると同時に、地域・社会・経済の抱える課題について、課題解決に必要な情報を収集する能力及び収集した情報を適切に分析する能力を有する。各領域の特徴を学び多面的に展開できる応用力を有する。資格取得を目指すものは、心理に関する支援を要する者の心理状態を分析する力、心理学分野の知識・技能を相談及び助言に応用する能力を有する。				⇔	②行動観察の手法を理解すると共に、これに基づき問題状況を環境要因との関連から捉えることができるようになる。 ③心理職及び教育職の働きかけの特徴を理解することができるようになる。		
【心理】多領域のステークホルダーを動員し、地域・社会の課題に対して主体的に取り組みながら、独創的な提案を行う力、問題解決に不可欠な総合的なシナリオを提示できる提案力を有する。資格取得を目指すものは、心理に関する効果的な支援を提案できる能力を有する。				⇔	④異なる専門性を有する援助チームのメンバーそれぞれの役割・特徴を活かした援助を検討することができるようになる。 ⑤自分の考えを分りやすく表現するとともに、他者の意見を聞きながら自分の考えを検討することができるようになる。		
(2)授業の概要	本授業では、講義・演習およびディスカッションを通して心理職が学校で支援を行うために求められる基本的な知識との技能の習得を図る。講義により学校心理学に基づく援助の全体像とプロセスを理解し、その後の演習・ディスカッションにより技能の習得を測るとともに講義で学んだ知識の理解を深めていく。						
(3)授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：学校心理学概論 第3回：ニーズと援助1ービデオ「車椅子から立ち上がれ」ー 第4回：ニーズと援助2ービデオを見てのディスカッションー 第5回：アセスメント1ー行動観察（日誌法）ー 第6回：アセスメント2ー行動観察（時間見本法）ー 第7回：アセスメント3ー行動観察（事象見本法）ー 第8回：心理職のはたらきかけの特徴と課題ー「生きにくい子どもたち」を読んでー 第9回：教師のはたらきかけの特徴と課題ービデオ「涙と笑いのハッピークラス」ー 第10回：教師のはたらきかけの特徴と課題ー「教師と子どもの関係作り」を読んでー 第11回：チーム援助 第12回：学生からの発表ー「適応」についてー 第13回：学生からの発表ー「援助」についてー 第14回：学生からの発表ー「連携」についてー 第15回：学生からの発表ー「子ども理解」についてー 最終レポート 期末試験の有無 無						
(4)成績評価の方法	・授業の達成目標①～⑤に関わる「授業実績」：50% ・授業の達成目標①～⑤についての理解度を確認する「振り返りレポート」：25% ・授業の達成目標①～⑤の到達度を確認する「最終レポート」：25%（出席2/3以上の者に提出資格を与える） ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀，89-80% 優，79-70% 良，69-60% 可，59%以下 不可 ＊評価割合は若干の調整を行うことがある。						
(5)成績評価の基準	①ディスカッションへの積極的な参加 ②授業後の振り返りレポートにおける授業内容の理解度 ③課題の内容について自身の体験と照らし合わせて検討することができたか ④他者の意見を取り入れながら検討することができたか 以上4つの観点について ①～④の4項目を満たし、且つ新たな視点を組み入れつつ検討することができていれば「卓越している」						

(5)成績評価の基準	①～④のうちの4項目を満たしていれば「かなり上にある」 ①～④のうちの3項目を満たしていれば「やや上にある」 ①～④のうちの2項目を満たしていれば「その水準にある」
(6)事前事後学習の内容	・毎回の授業後には、授業で学んだ内容について振り返り、感想と共にレポートにまとめて提出すること。 ・授業後半には、学生からの発表があるので、それに備え授業内容に関わる発表内容を準備しておくこと。 ・この授業は90時間の学習を必要とする内容です。従って、60時間以上の時間外学習が必要となります。
(7)履修上の注意	・臨床心理学コース以外の学生は、受講できない。 ・協議等へ積極的に参加すること。 ・毎回の振り返りレポートは、その週の火曜日までに提出すること。 ・8・10回では、参考文献に基づきディスカッションを行う。事前に参考文献を熟読し、心理職の働きかけの特徴、教師の働きかけの特徴についてA4用紙1～2枚程度にまとめ、授業に参加すること。 ・12～15回では、授業に関連するテーマを基に受講生が発表を行う。事前にA4用紙2枚程度のレジメを作成しておくこと。 ・この授業は受講学生の主体性、討論など参加型を重視した授業のため、「信州大学における授業の出席に関する要項」に規定する学習の補充対象とする事由で欠席した場合であっても学習の補充を行うことが難しい場合があります。
(8)質問,相談への対応	上村恵津子 (N220) TEL:026-238-4243 e-mail: kamietu@shinshu-u.ac.jp
【教科書】	指定しない。
【参考書】	・岩宮恵子 2009 生きにくい子どもたち－カウンセリング日誌から－ 岩波現代文庫 ・近藤邦夫 1994 教師と子どもの関係づくり－学校の臨床心理学－ 東京大学出版